

## 呉吉男（オ・ギルナム）

1942年生まれ、叔父に左翼系の運動家がいたらしく実家は何度も不幸な目に合うが、努力してソウル大に進学。しかし、徴兵された1963年からの「情報部隊前線派遣隊」にいた時に逆に共産主義思想に感化される。70年、ドイツ留学、72年に申淑子（韓国から看護婦として西ドイツに派遣された）と結婚。ドイツで反朴正熙、韓国民主化運動を展開。しかし、妻の病気や経済的苦境の中、北朝鮮工作員のすすめにより、1985年12月、北朝鮮行きを決意する（ルートは西ベルリンから東ベルリン、モスクワ、そして北朝鮮）。この時大きな役割を果たしたのが、西ドイツ在住の作曲家ユン・イサン。北朝鮮の実態を知り、86年11月、工作活動（拉致）を命じられてヨーロッパに送られたとき、監視員のすきを見てデンマークで再度亡命に成功する。しかし、残された妻と娘は、今も北朝鮮の収容所にいる。

## 呉吉男「恨・金日成」ザ・マサダより

1986年11月4日 月曜日

予想したとおり、朝、迎えの車が来た。

今日だと思っただけに、私はわざと驚いたふりをした。運転手は平壤に移る前、私たち一家が住んだ招待所によく来ていたおじさんだった。彼は朝鮮戦争の時、人民軍の兵士として韓国軍を南の端まで追い詰めた洛東江の戦線に行ったのが自慢の種で、根っからの労働党員だ。彼はまた、北朝鮮の実情にも精通しているようだったが、招待所にいた時は私の質問に対しては何も答えてくれなかった。しばらく走って車は“三号庁舎、と呼ばれる建物の前で停まった。記憶がはっきりしないが、そこは、たしか向こう側に金日成総合大学の校門が見えていたから、チョンソン洞あたりではなかったかと思う。

隣に座っていた白指導員が車から降りて、その建物のほうに消えていった。ここは中央党に直属する工作機関、情報機関が入っている建物であった。北朝鮮ではそうした機関のことを隠語で“三号庁舎、と呼んでいた。この周りのどこかに、いわゆる幹部用の生活用品供給所があると聞いたことがあった。

白治完は、しばらくして庁舎から出てくると、再び車に乗って運転手に何事か耳打ちした。乗用車は平野を抜けて山道に入っていった。

正午少し前に、大同江の上流にある二階建ての大きな山荘に到着した。そこからは何ヵ月前に私たち一家が住んでいた建物が見えた。

この招待所は海外に出る工作員や、北で「革命人士」と持ち上げられている日本から来た朝鮮総連の活動家、欧米に居住している北の息のかかった「統一人士」たちが密封教育を受ける場所である。私もこれから、工作員になるための洗脳教育をここで受けることになる。

食事がすむと、早速、教育が始まった。

最初に、工作員の活動フィルムを見せられた。それが終わると夕刻、洪課長と名乗る人物と中央党（朝鮮労働党中央委員会）の金指導員がやってきた。

まず、私は彼らに言われるまま、金日成の御真影の前で、工作員としての宣誓をしなくてはならなかった。

「……親愛なる指導者・金日成同志が命じられた任務を遂行することを誓います……」

宣誓がすむと、翌日からこちらの精神状態にはお構いなく教育は続けられた。

まず北朝鮮における工業の成果を教えこまれた。これは私の接触対象である朴炳燮と李文浩に北朝鮮の工業がいかに高いレベルにあるかを説明するためのものだ。説明だけでなく、私は実際に、

大安重機械連合企業所、社会主義成果展示館などに連れていかれ、詳しい解説付きで“著しい成果、を学ばなければならなかった。

私が欧州に行って工作活動をする目的は北が求めている人間を連れてくることにある。

北の当局が求めているのは、韓国の言葉を話す対南工作放送の要員である。北に連れてくるのが難しい場合は、韓国国内に地下党を構築する要員を補充しようとしていた。

---

呉吉男氏が生島孝子さんを目撃した場所（平成28年〔2016〕6月20日付調査会NEWS2228号から

蓮池薫さんの奥さん、祐木子さんからかつて増元照明・前家族会事務局長に送られた手紙の中には拉致された昭和53年（1978）の秋から翌54年（1979）10月まで増元るみ子さんと「平壤駅からあまり遠くないアパート」に住んでいたとありました。この場所はその前で昭和60年（1985）か

高麗ホテル（ツインタワー）



問題の建物（生島孝子さんと思われる女性はこの建物の前で呉吉男（オ・ギルナム）氏と言葉を交わしている。また、蓮池祐木子さんと増元るみ子さんが一時期住んでいたところではないかとも考えられる

ら61年の間に生島孝子さん（昭和47年-1972-失踪）と思われる女性が韓国人学者呉吉男氏に目撃され、言葉を交わしたアパートと推測されます。

ここには工作機関の関係者が住んでいたとも言われますが、ならば他の拉致被害者がいても何の不思議でもありません。考えてみれば安達俊之さん（昭和56-1981-失踪）も平壤市内で目撃されているわけで、拉致被害者がすべて隔離された場所にいるというのは思い込みのような気がします。蓮池祐木子さんは平壤で訪朝した中村敦夫氏を見たこともあると言っていました。